

家庭における防災活動

～ 家庭で防災について話し合いましょう ～



災害は突然襲ってきます。そして、家族が一緒にいるとは限りません。

そんな時でも慌てずにすむように、各自すべきことや避難方法、連絡方法を日頃から家庭でよく話し合っておくことが大切です。

■ 1 ■ 役割分担を決める

- ・ 日常の予防対策上の役割と地震発生時の役割を決めておく。
- ・ 子どもや高齢者がいる場合は、保護担当者を決めておく。

■ 3 ■ 安全な空間を確保する

- ・ 家具の配置換えをして、家の中に安全なスペースを確保する。
- ・ 家具の転倒などを防ぐため、家具を固定する。（12ページ参照）

■ 5 ■ 防災用具などを確認する

- ・ 消火器や救急箱、非常用品の置き場所を確認する。
- ・ 消火器の使い方を覚えておく。
- ・ 応急手当の方法を覚えておく。

■ 2 ■ 危険箇所をチェックする

- ・ 家の内外をチェックして、危険箇所を探しておく。
- ・ 危険箇所は、修理や補強方法について話し合い、早めに対策を行う。（10、12ページ参照）

■ 4 ■ 非常持出し品・備蓄品をチェックする

- ・ 必要な非常持出し品や備蓄品がそろっているか確認する。（22ページ参照）
- ・ 定期的に、保存状態や使用期限を点検し、交換する。

■ 6 ■ 連絡方法や避難場所を確認する

- ・ 家族が離ればなれになったときの連絡方法や避難場所などを確認し、災害時のための連絡MEMO（21ページ参照）を記入しておく。
- ・ 災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板の知識をつけておく。

防災マップを活用しましょう

◆自治会単位の防災マップ

東かがわ市では、自治会単位の防災マップを作製しており、市ホームページにも掲載しています。

避難場所や避難経路、ハザード等を記載していますので、定期的に確認しましょう。

また、各家庭で防災マップに必要事項等を追記し、より効果的に活用しましょう。

（例）追記内容 ↓

- ☐ 自宅の場所
 - ☐ 自宅からの避難経路
 - ☐ 家族の集合場所
 - ☐ 自宅付近の危険箇所
- など

